

借りぐらしのアリエッティ × 種田陽平展

Canforo 41

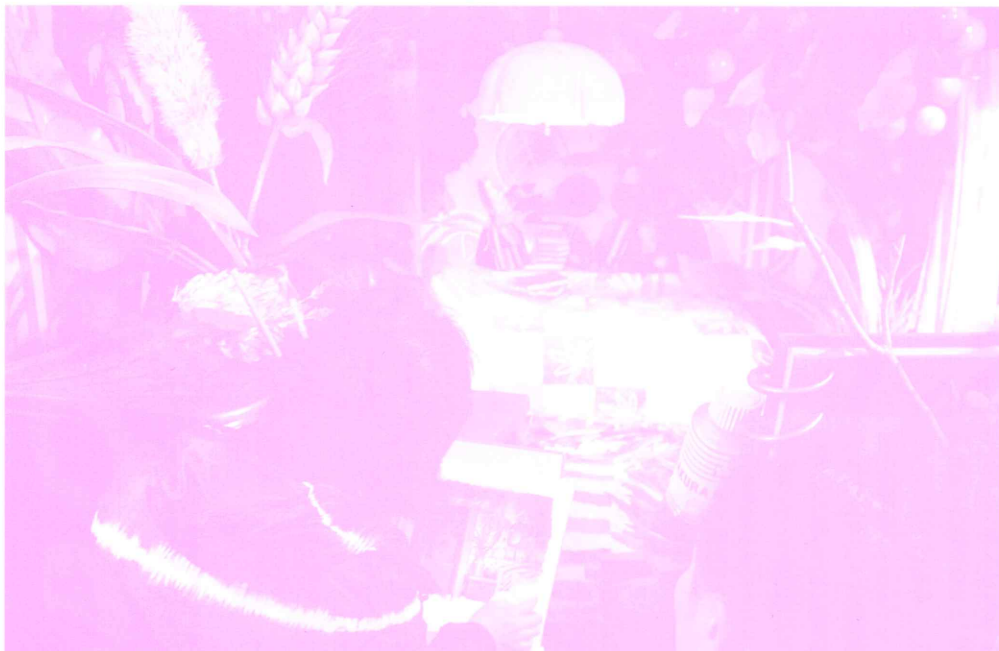
企画展①

平成23年4月3日[日]～6月12日[日]

休館日：月曜日 ※ただし、4/4(月)、5/2(月)、6/6(月)は開館し、6/7(火)は休館

時間：9:40～18:00(入場は17:30まで)

※4/8(金)、4/9(土)および4/29(金・祝)～5/4(水・祝)は20:00(入場は19:30)まで



背景画と見比べ、アリエッティの部屋を確認する種田陽平美術監督



種田陽平 美術監督



昨年夏より公開されたスタジオジブリの新作映画「借りぐらしのアリエッティ」。「キル・ビル Vol.1」や「THE 有頂天ホテル」、「フラガール」、「ザ・マジックアワー」、「悪人」など多くの話題作で知られる美術監督の種田陽平が、この度小人の少女・アリエッティが暮らす世界を展示室の中にアリエッティの目線からセットとして再現します。また、種田陽平のこれまでの仕事の紹介や、展示されるセットの模型、さらに映画「借りぐらしのアリエッティ」のイメージボードや背景画などもあわせてお楽しみください。

通常映画美術のセットは映像の中に収められた後は取り壊され、私たちが目にすることはありません。今回スタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーが種田陽平美術監督に声をかけ、アニメーション映画の作品世界を現実のセットとして立ち上げ、それ自体を作品として鑑賞するという魅力的な企画が実現したのです。

「世界観づくり」と「セットづくり」が映画美術の魅力だと語る種田陽平。映画のイメージボードや背景画を参考にしながらまず構想を練りました。そしてそのイメージを実現させるべく、各部屋の造りや壁はもろろんのこと、アリエッティが愛用している人間サイズのメモ帳など、ひとつひとつの日用品に至るまでこだわりを持って、実写映画の美術制作で活躍している数多くのスタッフたちの手で、丁寧に作られていったのです。

魔法を使えないアリエッティたちは、人間から借りたものを工夫して加工し、知恵を絞って暮らしています。現在ものづくりの大切さを忘れがちな現代社会の中で、映画美術の世界にしっかりと受け継がれてきた手仕事の技術の高さを、この展覧会で改めて目の当たりにすることができるでしょう。(H.S.)

関連イベント

- 種田陽平がつくったジブリの世界—実写映画の「セット」の魅力とともに
4月3日(日)13:00～14:00
語り手：種田陽平(美術監督)
場 所：愛媛県美術館 講堂
※先着120名(電話にて要申込)
- 学芸員による展覧会探検ツアー
4月7日、21日、5月12日(木)
各10:00～約1時間
※申込不要、ただし展覧会観覧料が必要
- 会期中、中庭でカフェを開催！
※詳細は決まり次第HPにて
- 会期中、本展に携わったプロの職人によるワークショップなど、魅力的な催しを企画中！
※詳細は決まり次第HPにて
- 「借りぐらしのアリエッティ」再上映決定！
4月23日(土)～5月13日(金)
会 場：シネマサンシャイン大街道
料 金：高校生以上1,000円
幼児(3才以上)、小中学生800円

©2010 GNDHDTW Production Design Yohhei Taneda

レポート 美術体験講座「お守りをつくろう」 12月4日(土)・12日(日) 14:00～15:30

12月の美術体験講座は、ペルーの伝統的なお守り「トリト」をヒントに動物のお守りを作りました。最初に、粘土の基本的な技法と道具の使い方を理解していただき、構想を練りました。参加した皆さんには「自分を守り、力をくれそうな動物」ということでアイデアを考えていただきました。完成のイメージが浮かんだら、いよいよ制作です。今回は新館で開催中のシカン展とも関連させ、昔ながらの土粘土で制作しました。皆さん、土のひんやりとした感触を味わいながら、板状にしたり穴をあけたりと工夫しながら楽しんでいらっしゃいました。

1時間ほどで完成した作品は、今年の干支である「卯」のお守りや、子どもたちの「怪獣」のお守りなど、ほのほのと温かくバラエティに富んだものでした。2回の講座とも多数の皆様にご参加いただき、充実した講座となりました。感謝申し上げます。

後日談になりますが、作品をご家庭で焼き、お守りとして身近に飾って頂いた方もいらっしゃいました。この粘土は乾燥後オーブンで焼くと陶器質になるのです。(T.I.)



レポート アトリエ同好会 — 染め —



美術館のアトリエでは、1年に1種目を定め、月に1回、共に作業を行うなかで情報交換を行う場として「アトリエ同好会」を開催しています。5年目に突入した今年度の種目は「染め」。

同好会に来られる方は、染めを家庭で行ってきた方から、習っている方、全く初めての方まで来られる方も様々。興味を持たれるものも千差万別ですが、アトリエの設備がガスコンロ2口、電気コンロ3口という、潤沢とはいえない状況を十分に理解していただき、4月はクサギと桜、5月はインド藍とベンガラと、2色ずつ染めてきました。家外染めてみて気づくのが、黄色や茶色に染めることは容易でも、緑色にはなかなか染まらないということ。アトリエに設置してある書籍や経験者の助言から染料を選んでいきます。その後も、コチニール、緑葉パウダー、ログウッド、セイタカアワダチソウと、購入したものもありますが、参加者が持ち寄ったものも数多くありました。

草木染めでは、書籍や見本とは異なる色に染まることも多く、その時々の色を楽しみました。そして、身近なモノが全て「染料」に見えてきて捨てられないのも草木染めの魅力？の一つとなっているようで、毎回、ご自宅で庭の草花やお料理の素材で染めた見本を持ち寄り、教えあうのも楽しみの一つとなりました。(A.T.)

INFORMATION

友の会会員募集

23年度の友の会会員を募集します。会員になると、たとえば展覧会が無料で鑑賞できたり、友の会企画の研修旅行や美術教室に参加できたりといった特典があります。年会費は3,000円からです。会員になって、美術館の事業にいろいろ参加してみませんか？詳しくは、美術館友の会までお問い合わせください。

● お問い合わせ先：
愛媛県美術館友の会 tel.089-932-0147

愛媛県警察音楽隊によるプロムナードコンサート

愛媛県美術館の前庭において春と秋、愛媛県警察音楽隊のコンサートを開催しています。

屋外という解放的な雰囲気と合わせて、親しみのある演奏曲に、小さな子どもから大人まで幅広い層に楽しんでいただいています。

自然の空気に触れながら、音楽の楽しさ、よさを味わうことができるコンサートです。ぜひ、お昼休みのひととき、お立ち寄りください。

● 春のスケジュール
4月8日(金)、22日(金)、28日(木)、
5月13日(金)、27日(金)
各12:20～12:50 ※雨天中止



土曜講座に参加しませんか？

美術館では、土曜日の14:00から約1時間程度、様々なテーマでの講座を行っています。当館学芸員が、いろいろな角度から所蔵作品について語ったり、ある作家を取り上げて深く掘り下げたり、時には創作活動をしたり。日ごろ学芸員が研究し、展示や作品収集、講座などに役立てている情報をみなさんにわかりやすくお伝えします。

毎週土曜日の午後、美術館に訪れてくださったお客様に、ちょっとしたプレゼント！ただし、実技講座や美術体験講座、企画展関連イベントなど、他の事業の開催日と重なる場合は休止となります。館内表示、HP等でご確認ください。皆様のご参加、お待ちしております。

「対話型美術鑑賞」を行う作品ガイドボランティア第4期生を募集します！

対話型鑑賞法とは、鑑賞者どうしのコミュニケーションをとおして美術作品を読み解いていく鑑賞方法で、1980年代にニューヨーク近代美術館(MOMA)で生まれました。

愛媛県美術館では平成17年度よりこの対話型鑑賞法を取り入れ、常設展や企画展を中心に活発な活動を続けていますが、この度、第4期作品ガイドボランティアスタッフを10名程度募集します。応募条件、応募方法等については3月中旬より美術館HPにてご確認いただくか、または作品ガイドボランティア係までお問い合わせください。みなさんのご応募をお待ちしています。



つぶやき

ひさしぶりの展覧会(シカン展)担当、昨年から1月初めにかけて本日に毎日バタバタとした日々を送りました。でも終わってみると、なんだか前よりもパワーアップしている気がする、というわけで新年度もがんばりま〜す！(Y.S.)

執筆者
 (K.E.) 遠藤貴治 (Y.S.) 鈴木育紀
 (N.T.) 武田信孝 (A.T.) 田代亜矢子
 (T.N.) 長井健 (M.I.) 石崎三佳子
 (H.S.) 杉山はるか (K.N.) 中山公子
 (T.I.) 稲田哲也

これからの展覧会
 学芸員からの
ココミテ!!

企画展②

「印象派の誕生」展より

フィンセント・ファン・ゴッホ《牛の群れ》



フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-90)《牛の群れ》
 油彩・カンヴァス 55×65cm リール美術館蔵

「印象派の誕生」展は、「ドラクロワとサロンの画家たち」「バルビゾン派」「印象派の誕生」「印象派以後」の4つのセクションから構成されます。本展には、フランス、ポーランド、アメリカ、日本の美術館より精選したヨーロッパ近代絵画が一堂に会します。ここでは「印象派以後」のセクションよりゴッホの一点を紹介します。

フランスのリール出身で、印象派、ポスト印象派の画家のバトロンとして著名な精神科医ガシェは、フラマン語で「リールの」という意味のヴァン・リセルの名で絵画や版画を制作していました。彼はリール美術館で見たフランドルの画家ヨルダースの油彩画《牛の習作》(17世紀第1四半世紀)を元に1873年版画を制作。これをゴッホが油彩で翻案したと考えられているのが、ガシェ旧蔵の本作です。

入院生活を送るサン＝レミからの転地を望むゴッホは、ピサロや弟テオに勧められて、ガシェが住むオーヴェル＝シュル＝オーズに90年5月到着。ガシェの診療を受ける一方、彼の為に作品制作することもありました。

ゴッホは版画を忠実に模していますが、画面の縦横の比率や下方の二匹の牛の間隔を変えています。加えて、その牛の輪郭に囲まれた黄緑の空間に緑の筆触を重ねて草の茂る様子を強調したり、左手に小花、右手にガマ科の植物を描くことで、牧歌的な気分を高めています。しかし同時に右上には鳥が追加され、7月麦畑に散る彼の未来を予告するかのように、陰影表現を無視した画面に唯一の「黒い影」を映じています。

込み上げる何かを抑え込み、心の空漠を埋めようとするかのように画布を踏締める絵筆の効果は強く、ヨルダースの原作、ガシェの模刻版画とも又違う表現性が本作には見られます。強烈な筆触の集積が野趣を匂い立たせる濃密な造形の背後には、ゴッホの魂の叫びが感じ取られるかもしれません。(N.T.)



印象派の誕生

平成23年6月5日[日] - 7月18日[月・祝]



魚を釣った拍子に、何かにぶつけたのか、前歯がぐらついて、歯医者に行くかと抜歯されました。魚の祟りだろうか？鏡を見て笑ってしまいましたが、流石に現代口腔医学は進んでいます。分からないように修復してもらう予定です。しかし、美術の修復と同じくらい時間とお金がかかるのでびっくりです。皆さん、歯と美術品は大切にしましょう。(K.E.)

information 23年度展覧会スケジュール 夏以降のラインナップです。今年も国内外の美術品に出会えます。お楽しみに！

友の会共催
 お蔵出し展
 一館蔵品をめぐる物語—(仮)

7/30(土)~8/31(水)
 “人に歴史あり”ではありませんが、作品も同様、それぞれの時間を経過し、様々な物語を抱えています。本展では、県立美術館(昭和45年開館)時代から収集してきた数々の館蔵品の中から、作品にまつわる物語とともに、いつもと違った視点から館蔵品を紹介します。

吉村作治の古代7つの文明展(仮)
 9/23(金)~11/13(日)

考古学者・吉村作治氏(サイバー大学学長)監修の下、エジプト、ギリシア・ローマ、インド、オリエント、中国、日本(縄文)、中南米(インカ、マヤ)の七つの古代文明の遺物を、日本国内の良質なコレクションにより紹介します。さらに、吉村氏が現在進めている「太陽の船発掘・復原プロジェクト」の全容も紹介します。

ウッドワン美術館所蔵
 近代日本の絵画名品展
 12/17(土)~1/29(日)

財団法人ウッドワン美術館の約800点のコレクションの中でも、岸田劉生(毛糸肩掛ける麗子肖像)や黒田清輝《木かげ》、上村松園《舞支度》などの近代日本絵画の名品と全国的に話題となったファン・ゴッホの《農婦》を特別公開します。



岸田劉生(毛糸肩掛ける麗子肖像)

レポート
**つながる
 つなげる**

愛媛ゆかりの芸術家たち 2010年10月9日(土)~11月28日(日)

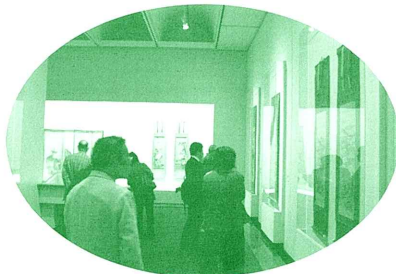
今年の秋は急な気候の変化のせいか、近年稀な美しい紅葉が見られました。美術館の周辺も鮮やかな赤や黄色で彩られたわけですが、本展の会期中はこの景色に作品も加わり、あわせて楽しむことが出来ました。それは、長くて細い綿紐に赤や黄色、緑、青などの鮮やかな色彩をつけた井川惺亮による作品です。美術館前庭の榎の木をこの紐作品でつなぎました。

本展では、江戸時代後期から昭和初期にかけて活動した芸術家、そして現在精力的に活動している芸術家の中から、日本画から油彩画、写真、石彫、インスタレーションなど多岐にわたる、13名の愛媛ゆかりの芸術家をご紹介します。展覧会名にもある「つながり」という言葉には広い意味がありますが、何よりこの展覧会では、愛媛という地で育まれた芸術を、来館者の皆さんとこの愛媛県美術館でつなげることを目標としました。

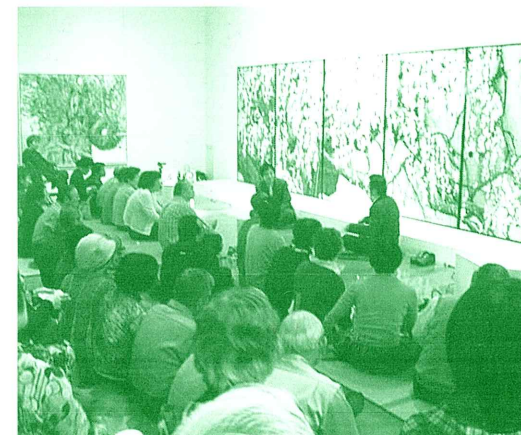
そのために会期中に行われた様々な催しの一つである、井川惺亮のワークショップは、参加者が庭の作品と同様に紐作品を彩色し、2階の展望ロビーに展示するまで2日間かけて行いました。また、出品作家によるアーティスト・トークや八木良太による(VINYL)(氷のレコード)の実演、学芸員による講座や対話型鑑賞法によるトークなど、多くの方法でますます美術館を「つながり」の場として皆さん楽しんでいただけたのではないのでしょうか。(H.S.)

出品作家

遠藤広実、沖原岳、天野方壺、長谷川竹友、三輪田俊助、井川惺亮、白岡順、吉幸和美、ケース・オーエンス、伊東正次、佐々木知子、西岡良太、八木良太



会場風景より



伊東正次 アーティスト・トーク



井川惺亮 ワークショップ「色をつなごう」

Column

作品保存の
 おはなし **作品の保管**

今回は、作品の保管についてお話します。作品保管の一番の留意点は、温湿度と照度と言われます。作品の素材により異なりますが、温度22℃(±2℃)、湿度55%(±5%)を一定に保ち、光による退色を注意するため直射日光が当たらない場所に置くことが必須となります。高温多湿になると害虫やカビによる被害が出やすくなったり、温湿度変化により紙や木が割れたり、支持体と絵の具の収縮の違いから亀裂や剥落がおこります。

美術館では、空調を安定させた上で、作業時以外電気も消した部屋に保管しています。展示の際にも照度を測り、明るさと展示期間を計算して退色を選び、また、害虫の温床にならないように清掃作業を小まめに行なっています。しかし、人が出入りするところ、虫の出入りも容易になるため、一年に一度、全所蔵作品を収蔵庫(作品を保管する大型金庫のような部屋)に入れて気体による殺虫作業「燻蒸」を行なっています。

一般家庭で、燻蒸を行なうことは難しいでしょうが、昔から気候の落ち着いた時期で、晴れ間が数日続いた後に作品を飾り、空気に晒す作業で湿気を取り除いていました。皆さんのお家でも、一年に一度「虫干し」を行い、作品を眺めてみては如何でしょうか？(A.T.)



収蔵庫での燻蒸作業

ハトの声(編集後記)

ネタ探しで、何気にブログ(びーぶろ)をチェック。ただいま白洲展真只中で、担当のtake4さんが会期中、毎日更新を目指し、がんばっていました。会期以前から、この1年準備の経過をブログにつづり、展覧会に注ぐ愛情を感じ、私の中で今年度のブログ大賞はtake4さんに決定です！ブログは学芸員の素顔が垣間見えますので、ぜひご覧ください！(M.I.)



このカンフォロが発行される頃には、担当の白洲正子展も終わりを迎えます。約2年、準備のために彼女の足跡を追うように、著名なお寺・神社さんにもたくさんお礼のようでした。果たしてそのおかげはあるのでしょうか…?(T.N.)

ご利用案内

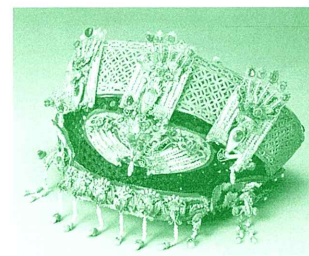
■開館時間 9:40~18:00(入室は17:30まで)
 企画展の終了時間は、展覧会により異なります。
 ※実行委員会及び貸展については、入室時間が異なる場合があります。
 各展覧会のページでお確かめください。
 ■休館日 毎週月曜日
 (祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日)



愛媛県美術館
 ホームページへGO

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
 TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
<http://www.ehime-art.jp/>



《鍍金点翠鑲珠石冠飾子》故宫博物院蔵

地上の天空 北京・故宮博物院 展

H24.2/9(木)~3/18(日)

北京・故宮博物院に所蔵される明・清両王朝ゆかりの絵画・工芸・服飾・宝飾の名品約120点を通して、中国宮廷文化の精髓を紹介します。とりわけ、皇妃や宮女など故宮に生きた女性たちをメインテーマに、彼女たちの知られざる波瀾万丈の生涯とまなざしをたどりながら、「地上の天宮・故宮」の魅力ドラマティックに描き出します。